

OS9 : 原子力安全のための耐津波工学の形成

オーガナイザー：オーガナイザー：亀田弘行（京都大学名誉教授），今村文彦（東北大学），宮野 廣（法政大学）

概要：昨年作成、制定された規制基準に基づき、既存発電所の適合性審査が実施中である。本調査委員会が目指す、原子力施設の安全確保のための、体系化された耐津波工学は、究極は、現在の規制審査並びに事業者の安全確保をサポートするための基本および技術情報である。

これを受けて、本調査委員会が発足したわけであるが、本調査委員会の特徴は津波安全に関わる産官学を横断する活動を実施する重要な使命がある。

そこで、本OSでは、こうした背景を踏まえ、本調査委員会が学術の立場から目標とする耐津波工学の姿を、産官学で議論する重要な場を提供したい。

セッション構成案

1. 地震工学会の調査委員会の活動紹介（亀田委員長）
2. 原子力発電所の津波安全確保の考え方（ ）
 - 2-1 耐津波工学の体系案について（ ）
 - 2-2 規制庁の規制基準の解説（ ）
 - 2-3 民間基準の考え方について（ ）
3. 原子力発電所の津波安全確保の考え方に関するパネル討論（今村副委員長）
「津波安全確保のさらなる適用性向上を目指して（仮称）」

旧概要：東日本大震災における福島第一原子力発電所の過酷事故の主たる原因は、原子力発電所における津波対策の不備にあった。この認識に基づき、日本地震工学会に「原子力安全のための耐津波工学の体系化に関する調査委員会」を設置し、2012年9月から2年間の予定で活動している。本セッションでは、委員会討議で明らかになった原子力発電所の津波安全の重要課題につき、委員以外からの観点も加えて討議する。テーマには、地震・津波工学に求められる原子力安全の基本事項、原子力発電所の地震・津波事故シナリオ、原子力施設の地震・津波安全に関する性能、リスク論に基づく津波防御の体系、津波の外力作用、津波防御に関する工学の体系化、フラジリティー評価、一般防災との関連、耐津波工学関連の解析コード、耐津波工学の体系、などを取り上げる。論文公募の有無：本セッションでは発表論文の公募は行いません。